

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4075000143		
法人名	社会福祉法人 福祉松快園		
事業所名	松快園 グループホーム やすらぎの里		
所在地	福岡県遠賀郡水巻町吉田南2丁目9-1 (電話) 093-201-4822		
自己評価作成日	平成 27 年 7 月 1 日	評価結果確定日	平成 27 年 10 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者の個々を尊重し、本人の希望や願いを実現できるよう支援している。また、利用者の得意とする事や出来る事を生活の中に取り入れ、生き生きとした生活が出来るよう支援している。やすらぎの里はケアハウスの10階にあり、リビング・掘りごたつのある和室から広いガラス張りの窓を通して視界が広がり、まるで自然の懷に包まれているかのようなのである。また、桜並木や自然を取り入れた遊歩道・数多くの植栽・野鳥など四季の移り変わりを肌で感じながらの散歩やゆったりとした時間の流れを感じて過ごせるせいかつ場であり、まさしく「やすらぎの里」と言える。また、福祉のあらゆる事業所を有する複合施設であり、他事業所との交流も頻回に行なわれており緊急事態発生時の応援体制も完備されている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 27 年 8 月 12 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、住宅地の小高い丘を利用し建てられたケアハウスの10階にあり、窓からは近隣の風景が一望でき、開放感あふれるホームとなっている。また、自分の家にいるようなゆったりとした雰囲気大切に、家庭的な環境での共同生活ができるよう努められている。母体法人は、施設・在宅サービスの充実が図られており、地域の中核福祉として開かれた施設づくりが行われている。各施設との交流や連携が行われるなか、職員は様々な経験を積み、スキルアップを図っている。手厚い介護体制のなか、認知症によりご家庭での生活が困難な利用者の方々も安心してサービス利用できる事業所である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【1 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に地域密着という点を熟慮し、事業所独自の理念にてフロアに掲示しており、常に目に付くようにして周知を図り、実践に繋げるようにしている。	法人、事業所理念ともに地域密着の視点を有し、勉強会、職員会議で理念を深める取り組みを行っている。 理事長や管理者が率先し、町内会の活動や地域行事への参加を行い、理念の浸透に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	母体法人が町内会に加入しており、地域の盆踊りなどの行事に参加したり、定期的に地域のボランティアによる話し相手や健康体操等を行い交流を行っている。	町内会に加入し、日頃から草刈などの地域活動へ参加している。また、法人・事業所主催の行事も様々行い、地域の福祉をけん引する中核機能を果たしている。 最近では、法人内において、子供クラブ（学童保育）が行われ、地域の方々と言葉を交わす機会も増えている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症に対する思いを伝える機会があるので、委員の方々に、研修や日々のケアで学んだ事を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、事業所からは活動状況を報告し意見交換を行い、そこで意見をサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、運営状況の報告やサービスの質の向上に向けての意見交換などが行われているが、家族の参加が時間の都合上折り合わず、不参加になっていることが多い。別途、家族会の開催や、面会時に意見交換を行っている。	運営推進会議のなかで、家族は構成員として重要な位置づけであると考えられる。事業所の仕組みや具体的な改善課題を検討したり、地域の理解と支援を得るうえで、出来るだけ利用者家族が参加され、更なるサービス向上につながるよう期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際、行政の担当者に参加していただき、災害時の避難場所の情報交換を行なっている。	グループホーム協議会に所属し、そのなかで、行政担当者との意見交換を行っている。日頃も、毎月定期的に行政担当課を訪問し、情報提供や意見交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設以来、身体拘束ゼロの取り組みを行っているため、今後も身体拘束を行わないため、研修などで学んだ事を職種会議や勉強会で伝え、資料にし、職員全員が目を通してしている。	身体拘束に関するマニュアルがあり、夜間を除き、居室・玄関は施錠をしていない。職員は利用者の外出傾向を把握し、見守りや付添いを行っている。年1回程度、外部研修を受講した職員が、内部の研修にて周知をしている。	
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を行わないように、勉強会でさらに知識を深め、実践では、声掛けなど職員間同士で気をつけている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修で学んだことを勉強会にて伝え資料にし、入所者の状態に合わせて説明をしている。	権利擁護に関する制度について、契約時や必要時に説明を行っている。年1回程度、外部研修を受講した職員が、内部の研修にて周知をしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時は重要事項説明書に基づき十分な説明を行い、不安や疑問点を尋ね、ご理解・納得をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、総会時にご家族の意見や要望等を話す機会がある。普段の面会時においても要望や意見を伺っている。また相談箱の設置や相談窓口の明示により意見を反映できる機会を設けている。	職員は、日頃から利用者の思いについて、家事などの共同生活を一緒にするなかで話しやすい関係の構築に努め、耳を傾けている。また、外部からも傾聴ボランティアが訪れる機会もある。利用者の提案で園芸活動が定期的に行われている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職種会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設けており、日々の業務の中でも職員に声掛けして意見交換を行い、運営に反映させている。	管理者は日頃から職員への声かけを行い、意思疎通を図り、職員の意見等を取り入れるようにしている。気づきが介護サービスの改善や業務の見直しに繋がることも多く、職員全体が前向きに取り組んでいる。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の勤務状況を把握し、やりがいや向上心を持てるように環境の整備に努めている。		
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用において性別や年齢による排除は一切ない。また、法人内に託児所もあり、子育てをしながらでも能力を十分に発揮して働ける環境も整えている。	職員の募集・採用については特に制限なく、行われている。定年後も再雇用制度があり、法人内では多くの年配者が就業されている。研修の受講や資格取得も支援し、働ける環境に配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表は人権教育について重要性を理解しており、勉強会等で職員への啓発活動をしている。	職員に対する人権教育・啓発活動に関する取り組みについては、年1回程度、内部研修の実施を計画し実施している。外部研修は数年に1回、受講させ、フィードバックしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で計画的に職員教育の体制ができており、一人ひとりの経験や能力の応じた教育が受けられる仕組みや日常的に学ぶ事が出来る機会が確保されている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に加入しており、地区研修会の参加を通して県内の他事業所との交流・連携を図り、情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心した生活が送れるようサービスを導入する前に訪問し、情報収集を行い不安や要望を伺い、出来るだけ思いを実現できるように関係作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望を伺い、家族の思いを理解し信頼関係を構築し、安心して利用いただけるように努めている。		
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期導入時に必要としている支援を本人・ご家族と協議した上で見極め、他のサービスを含めた対応に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で生活全般の活動を共にし、職員が教える場面もあり共に支え合う関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の近況報告やイベントへの参加を呼びかけ、共に支えていく関係作りに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出や友人が訪ねて来る事もあり馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	管理者・職員は利用者の馴染みの場所や人について把握し、関係継続の支援を行っている。最近では、ケアハウスやデイサービスを経て入居される方が多く、入居後も交流のため、支援を行っている。また、馴染みの方が来訪された場合、継続して来て頂くようにお声かけしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの関係を把握し、レクリエーションや日々の談話を通じて孤立しないよう職員が配慮し、支え合う関係作りに努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もイベントへのお誘いをしたり、ご家族にも運営推進会議へ参加していただくなど関係を断ち切らないように努めている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望や意向を日々の会話の中から把握し、困難な場合はご家族からお話を伺いご本人の希望を実現できるよう努めている。	利用者の希望や意向を日々のかかわりの中で把握するようにしている。言葉が聞き取りにくい利用者に対しては表情からくみ取ったり、家族に意見を聞くなどしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦や日々の暮らしの中から、これまでの暮らしを把握するよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で観察を行い、心身状態や有する能力の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議には本人・家族・職員でアイデアを出し合い、参加できない場合は面会時に話を伺い、より良く生活するための介護計画を作成している。モニタリングにて見直しを行い、ケアの在り方を評価している。	利用者担当職員の意見を聞き、利用者、家族の意見を反映させて計画作成担当者が最終的にまとめている。モニタリングは月1回行い、見直しが必要な場合は適宜、変更を行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には日々の様子や気づいた事を記録し、職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が馴染みの美容室で髪が切れるようにご家族と外出の機会ができたり、健康上、他科受診が必要であれば、職員が付き添いをし、柔軟な対応をしている。		
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや役場、法人内の事業所との交流により豊かな暮らしを楽しむことができるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回かかりつけ医に受診し連携を図っている。また本人やご家族の希望に応じ協力医療機関との連絡調整も行い適切な医療が受けられるよう支援している。	施設敷地内に法人運営のクリニックがあり、週1回の訪問診療。月2回の定期受診と体制を整えている。 本人、家族の希望に応じた医療支援を行っている。 在宅から当施設に入所する利用者が少ないためか、以前からのかかりつけ医を希望する利用者は少ない。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師の訪問があり日常の状態や気になることを報告し助言を頂いたり適切な受診が受けられるよう支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	近隣の医療機関とは連携室を通じて法人開設以来関係作りをしており、入院時に治療や早期退院に向けた相談や情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始前に重度化や終末期の方針を説明しご家族の思いを伺っている。利用者の状況の変化に応じて本人・ご家族・かかりつけ医・職員で協議を行い合意を得た上で支援に取り組んでいる。	健康状態を説明し、家族の理解を図っている。また、必要に応じて、看取りの説明を職員立会いのもと、かかりつけ医師が説明を行っている。 終末期には1週間ごとに医師が説明を行い、必要な時は協力病院に繋ぐなど、家族の気持ちに寄りそうようにしている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに職種会議や勉強会などで学ぶ機会を設け応急処置や初期対応の実践力を身に付けるよう努めている。日常的には介護経験の長い職員が指導に努めている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回ケアハウスと共に避難訓練を行っている。消防署や地元消防団との連携もあり法人内の他事業所の避難訓練にも参加し、いつでも実践できるようにしている。	避難訓練、初期消火訓練、夜間避難訓練、年2回の合同避難訓練を行っている。地震対応の訓練は行っていないが、今後計画に入れる予定である。 非常用の備品は食料品を含めて併設のケアハウスに3日分準備している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねる事の無いように言葉かけや対応に配慮している。接遇や個人情報の取り扱いについて勉強会を実施して意識向上に努めている。	利用者の生活のパターンを把握し、さりげない声掛けで、本人の誇りを損なわないよう配慮している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のケアを通じ利用者の言葉・表情・行動から思いや意向を把握し感情の表出が難しい利用者においても真意を押し量り、また家族からの情報等をもとに自己決定出来るよう努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは有るが利用者の状態や気持ちに配慮しながら柔軟に対応している。レクリエーションや散歩なども画一的に行うのではなく利用者の気持ちやペースに合わせて対応している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意向を確認しながら好み等にも配慮し、その人らしい身だしなみやおしゃれの支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように利用者と職員と一緒に食事の準備やおやつ作りを行い、それぞれの力が活かせるよう支援している。	冷凍食品を使わない、旬の食材を使うということを基本にしている。利用者と協力して育てた野菜や果物をおやつなどに出して、食事を楽しむよう工夫している。	
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が立てており利用者に合わせてバランスの良い食事が提供できている。食事や水分の摂取量は記録を残し栄養管理に活かしている。摂取量の減少が見られる場合は声掛けを行ったり体調に合わせて調理を変更し対応している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれの状態に応じて必要な介助を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握する為、記録を残しそれぞれのパターンに合わせて声かけを行い尿意の訴えの無い方には排泄間隔に応じたトイレ誘導を行い、出来る限りトイレでの排泄をして頂けるよう支援している。	利用者の生活のパターンを把握し、さりげない声掛けで、本人の誇りを損なわないよう配慮している。 嫌がる利用者に対しては、気持ちを他に持っていきよう声掛けし、誘導している。 現在特に拒否の強い利用者はいないが、さらに信頼関係を築いて羞恥心や、不安を取り除くよう配慮している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量を把握し少ない場合は摂取を促し適度な運動を取り入れ、それでも排便困難な場合は最小限の緩下剤を使用し便秘の予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週に3回以上実施し本人のタイミングに合わせて柔軟に対応している。無理強いする事の無いよう声かけ・タイミング・誘導などに工夫をこらし入浴を楽しめるよう支援している。また、ケアハウスと連携を摂り大浴場での入浴も実施している。	毎日入浴できるよう準備をしているが、現在の利用者の入浴頻度は週3回程である。また、職員のアイデアをきっかけに月に一回法人の他施設にある大浴場での入浴も行っており、利用者に好評を得ている。 入浴を嫌がる利用者に対しては、職員が工夫を凝らした声掛けをしたり、利用者のお姉さん役のような他の利用者に声掛けしてもらうなど、スムーズな入浴を心掛けている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調などに応じ休息をして頂いている。また、日中の活動を高めることで夜間の安眠が得られるよう支援している。		
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	情報提供書や薬の説明書をもとに薬の目的や副作用、用法や用量を理解し症状の変化を把握するよう努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や家族からの情報をもとに日々の張り合いや喜びが持てるよう茶道・華道・歌などの楽しみごとを持てるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って散歩や買い物など柔軟に対応できるよう努めている。図書館見学など普段行けない場所へも出かけられるよう支援している。	散歩は毎日行っている。家族会主催の年1回の夕食、2～3か月に1度の買い物、月1回のドライブなどの外出支援を行っている。 職員配置の工夫をしながら、外出を支援する職員からの思いがある。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけた時などに預かり金の中から希望に応じて支払いが出来るよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から家族への電話を希望される事は少ないが家族からの電話でお話をして頂いたり行事のお誘い等を通じて、やり取りが出来るよう努めている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は大きな窓があり明るく開放的で見晴らしもよく、食堂にはベランダで咲いた花を飾り季節感が感じられるようにしている。和室では利用者がのんびり過ごし談話を楽しむ場面もみられ居心地の良い空間となっている。	居室や、共有スペースのベランダにプランターを置き、季節の草花や緑が楽しめるスペースがある。 そこでできたブルーベリーの収穫を楽しむなど心地よく過ごす工夫をしている。和室では茶道教室を開催したり、絵手紙教室で利用者が描いた力作を飾るなどして居心地の良い空間にしている。	
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファや畳の間や玄関のエントランスを活用し一人でのんびり過ごしたり気の合う方やご家族と談話したり、思い思いに過ごせるよう工夫している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	23	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には自宅から使い慣れた家具・仏壇・家族の写真など持ち込んで頂き居心地良く過ごせるよう工夫している。</p>	<p>他施設に居住していて、当施設に入所したという利用者が多いため、所持品が少ない利用者が多いが、本人のなじみのものを持参していただくよう家族に話をするなどして、居心地よく暮らせる工夫をしている。</p> <p>家族写真を家系図にして壁面に飾っている利用者もいる。</p>	
57	—	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室の表札・トイレの表示・風呂の表示など場所の確認が出来るようにしており、廊下には歩行の妨げになるような物は置かず迷わず安全に過ごせるよう工夫している。</p>		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
			○	② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が
			○	② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない